

【レポート】第3回 身の回りのリスク・新技術・マクロトレンド に対する意識調査

AIG 総合研究所 主任研究員
藤居 学

1. はじめに

AIG 総研では、リスクに対する人々の主観的な認識、態度、意思決定のあり方への理解を深めるための「身の回りのリスクに対する意識調査」を2020年3月と10月に実施しました¹。それら調査から約2年が経過したことをふまえ、今回、第3回となる同調査を今年9月に実施しました。

3回目の調査となる今回は、定点調査という位置づけの「身の回りのリスク」に関する調査に加えて、今後実用化が見込まれる新技術に対する関心とリスク認識（社会受容性）、ならびに日本をとりまくマクロトレンドに関する認識を設問に追加して実施しました。

2. 調査概要

- (1) 調査対象 18歳から80代までの男女
- (2) 調査方法 ネット調査モニター会員に対するオンライン調査
- (3) 調査期間 2022年9月8日から同14日
- (4) 調査項目 本稿添付の調査票参照
- (5) 有効回答件数 1,691件

3. 結果概要

(1) リスクに関する意識：過去調査との比較とあわせて

本意識調査において、リスクに対する意識に関して、一部の設問については過去の調査と同様の内容となっており、比較が可能です。まずはそれらについて、今回の結果ならびに過去からの回答傾向の時系列での変化をみてみます。

まずは、主観的リスクの大きさ評価についての比較です。

今回の調査では、前回まで3カテゴリに分けていた病気・ケガへの認識を1つにまとめた一方、新たに「外国からの侵略・武力攻撃」、「気候変動・地球温暖化」という2項目を追加しています。

¹ AIG 総研インサイト#06【レポート】身の回りのリスクに対する意識調査 <https://www-510.aig.co.jp/about-us/institute/insight/06.html>, AIG 総研インサイト#09【レポート】第2回 身の回りのリスクに対する意識調査 <https://www-510.aig.co.jp/about-us/institute/insight/09.html>

AIG 総研

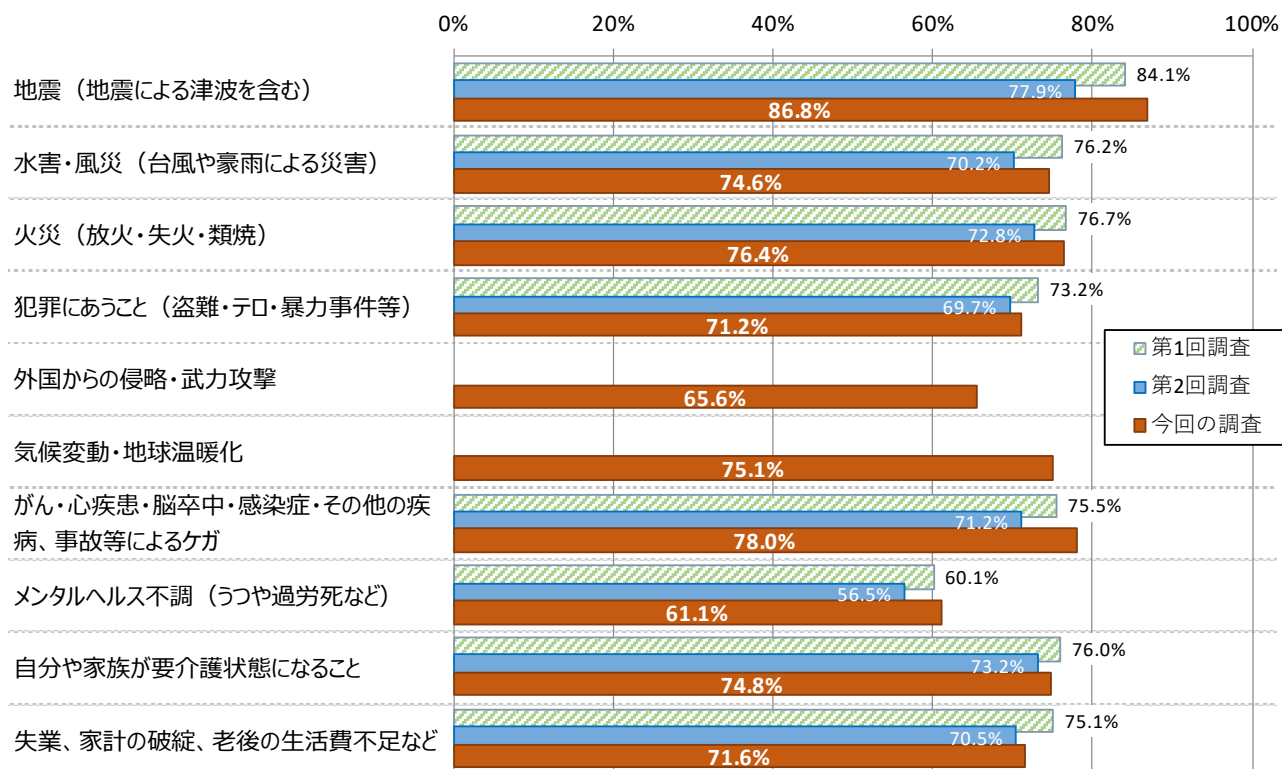
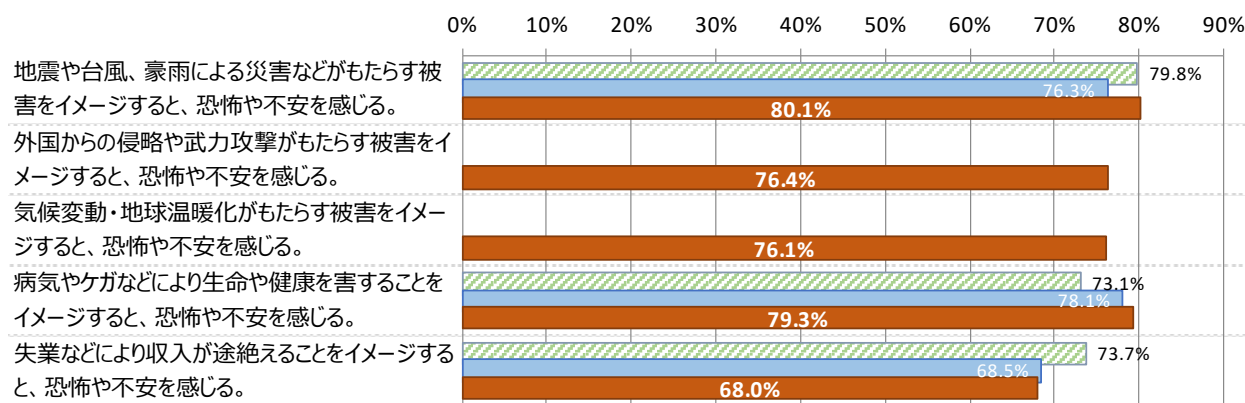


図 3-1. 前回・前々回調査との比較: 主観的リスクの大きさ(「大きいリスクだと感じる」「やや大きいリスクだと感じる」の合計)。なお、前回・前々回調査における「がん・心疾患・脳卒中・感染症・その他の疾病、事故等によるケガ」の数値は、3カテゴリに分かれていた病気・ケガの設問への回答の平均を図示している。

前回調査でいったん全体的に下がっていた、リスクを「大きいと感じる」との回答率は、今回再び増加に転じており、概ね、前々回に近い数値となっています。また、今回新たに追加した「外国からの侵略・武力攻撃」、「気候変動・地球温暖化」の2つのリスクを「大きいと感じる」割合は、それぞれ 65.6%、75.1%となりました。

続いて、さまざまなリスクに対する「恐怖や不安」の大きさ、およびそれらリスクに対して日本の社会がうまく対処しているかどうかの認識についての回答結果を以下に示します。



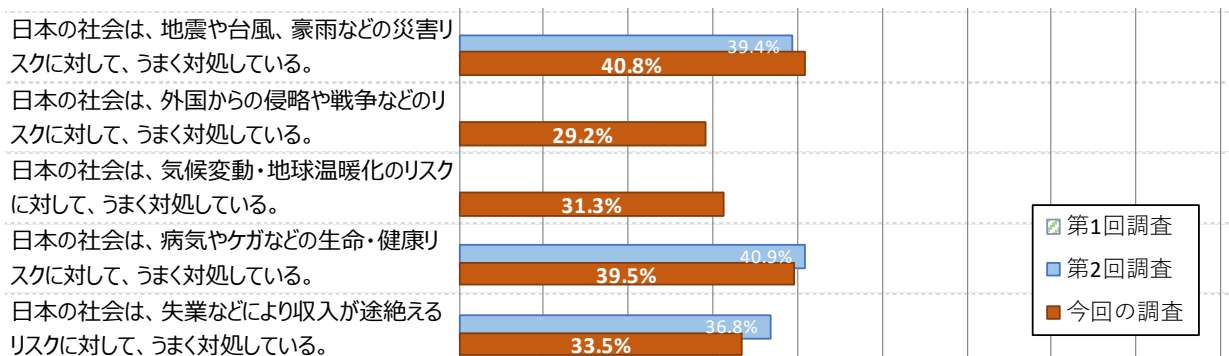


図 3-2. 前回調査との比較: リスクに対する恐怖・不安と日本の社会がそれらにうまく対処していると考えかどうか(「そう思う」「ややそう思う」の合計)。「恐怖」についての第1回調査については、該当するリスク項目への回答の平均値を図示している。

前回・前々回と比較し、リスクへの恐怖・不安の結果が興味深い動きを示しています。自然災害については前回減少した後今回は再び増加、病気・ケガについては増加が続いている一方、収入の途絶については減少傾向が続いています。

過去のインサイトでも触れたとおり、リスクに対する人々の認知は、リスクの「大きさ」と「恐怖」という二次元で位置づけることが可能だと考えられています。そこで、これまでの調査結果をまとめてマッピングすると、以下のようにになりました。

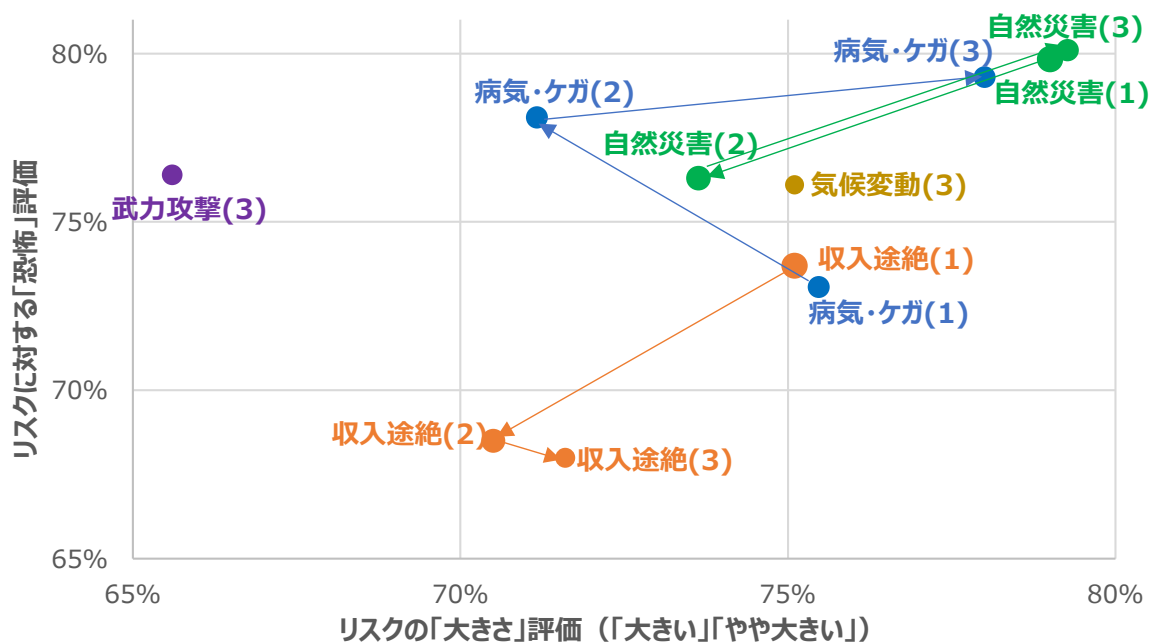


図 3-3. リスクの「大きさ」および「恐怖」の評価の推移マップ。カッコ内は何回目の調査かを示す。「自然災害」については地震、風水害、火災への回答の平均、前回、前々回の「病気・ケガ」については疾病およびケガについての回答の平均で表示。

これをみると、「病気・ケガ」のリスクは年々深刻にとらえられるようになり、今回の調査では自然災害と同等に「大きくて怖い」リスクという位置づけとなったことが分かります。感染症の世界的流行などが背景にあると想定されます。逆に、第1回調査では「病気・ケガ」と類似のリスクととらえられていた「収入途絶」リスクは、やや深刻度の認識が低下し、「病気・ケガ」とは性質の異なるリスクとしてとらえられるようになったことが示唆されています。そして、自然災害リスクへの評価は、

AIG 総研

今回の調査では第 1 回調査とほとんど同じ位置に戻ってきています。また、今回新設した「外国からの侵略・武力攻撃」、「気候変動・地球温暖化」についての回答をみると、それらのリスクに対する恐怖・不安は 76.4%と、自然災害等や病気・ケガより若干低い程度のかかなり高い水準にあるのに対して、それらに対し日本の社会がうまく対応しているとの回答は 3 割前後と他のリスク対応への評価よりもかなり低くなっています。

続いて、回答者自身のリスクに対する備えについてです。

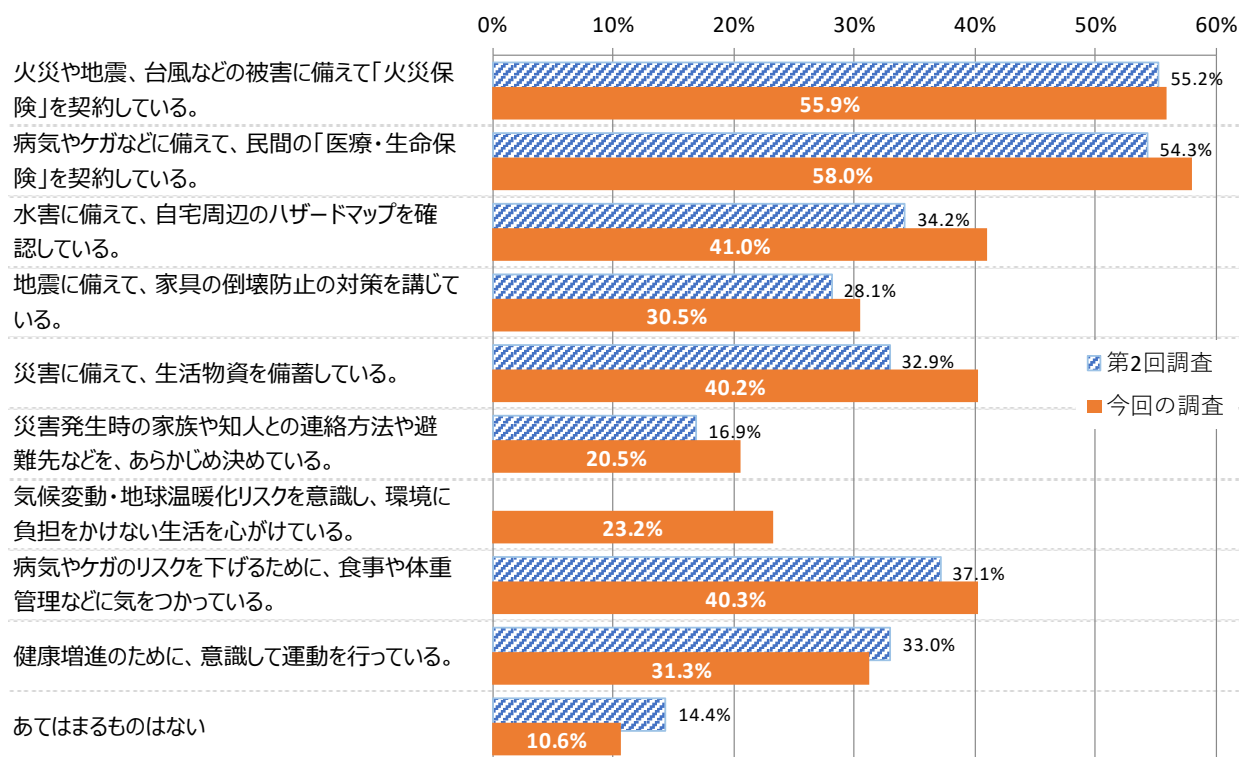
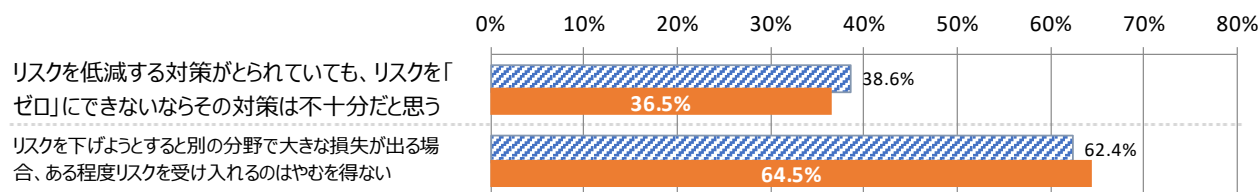


図 3-3. 前回調査との比較: リスクに対する備えについての調査結果(複数回答)

前回調査と比較し、災害やその他のリスクに対するさまざまな備えを実施している割合が増加傾向にあります。特に、「ハザードマップを確認している」は 34.2%から 41.0%に 6.8 ポイント増、「生活物資を備蓄している」は 32.9%から 40.2%と 7.3%増と、それぞれ大きく増加しています。また、保険によってリスクに備えているとの回答は、火災保険・民間の医療保険ともに過半数を占めており、前回調査と比較し微増しています。

リスクに対するさまざまな意識についての比較結果は、以下のようになりました。



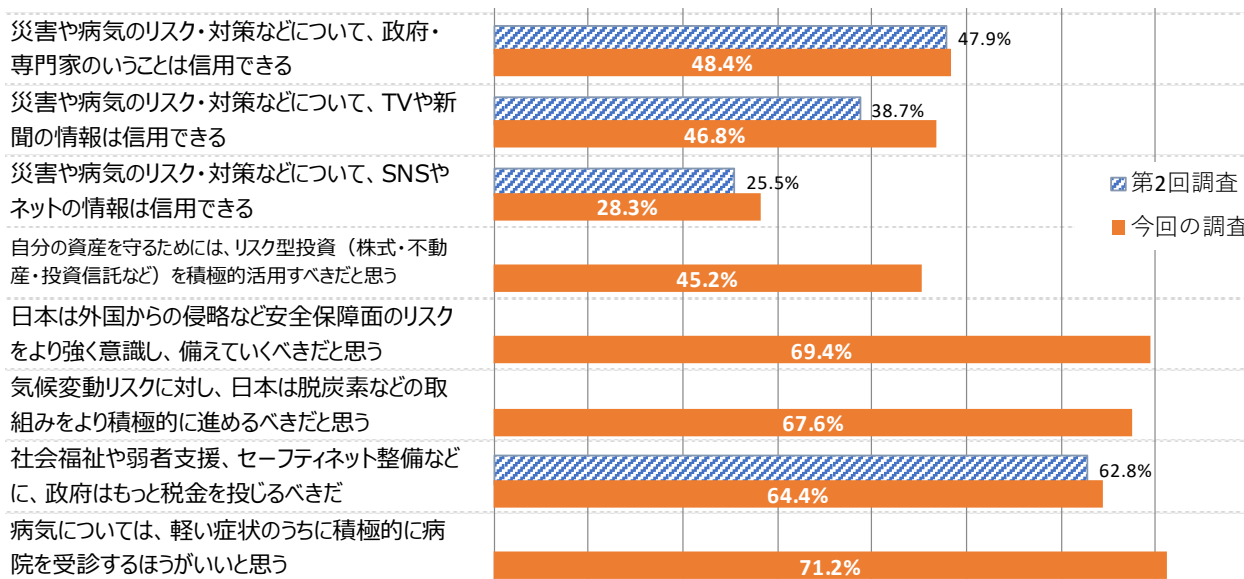


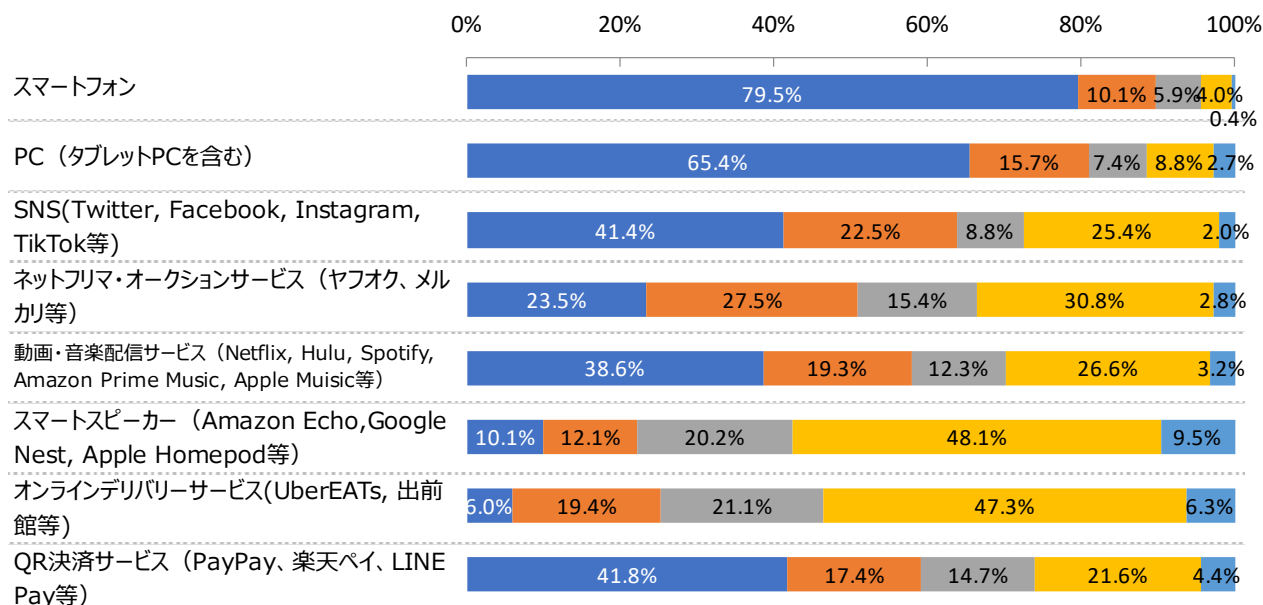
図 3-4. 前回調査との比較: リスクに対するさまざまな意識(「そう思う」「ややそう思う」の合計)

前回調査との比較では、リスクに関する情報について、マスメディアから発信される情報への信頼度が改善している(38.7%→46.8%)のが見てとれます。同様に、ネットからの情報への信頼も若干高まっています。また、今回新設した設問のなかでは、安全保障面のリスクへの対策の強化、ならびに気候変動リスクへの取組みの強化について、いずれも7割前後の賛同が集まっています。

(2) 新技術・マクロトレンドに対する意識について

今回の調査では新たに、身近な新技術への関心やリスク認識、日本をとりまくマクロトレンドに対する意識について聞いています。

まずは、現在利用しているIT機器やオンラインサービス等についての質問への回答結果です。



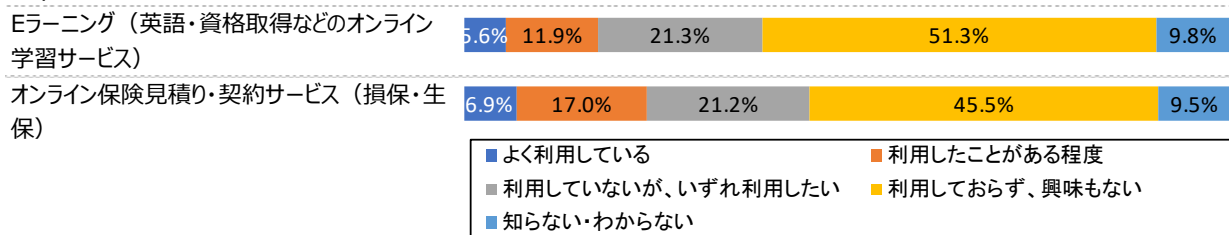


図 3-5. 現在利用している IT 機器・オンラインサービス等

「よく利用している」「利用したことがある程度」の合計（以下「利用率」と呼びます）でみると、スマートフォンが約 9 割、PC が 8 割強と高い利用率をしています。ただし、この調査がネットを介したオンライン調査によって実施されている点は考慮する必要があります。

それ以外では、SNS、ネットフリマ・オークションサービス、動画・音楽配信サービス、QR 決済サービス等について利用率が 5 割を超えています。スマートスピーカー、オンラインデリバリーサービス、E ラーニング、オンライン保険見積り・契約サービスについては 2 割程度と低めの利用率に留まっています。

続いて、今後普及が期待される新技術・新サービスへの関心・利用意向についての回答です。

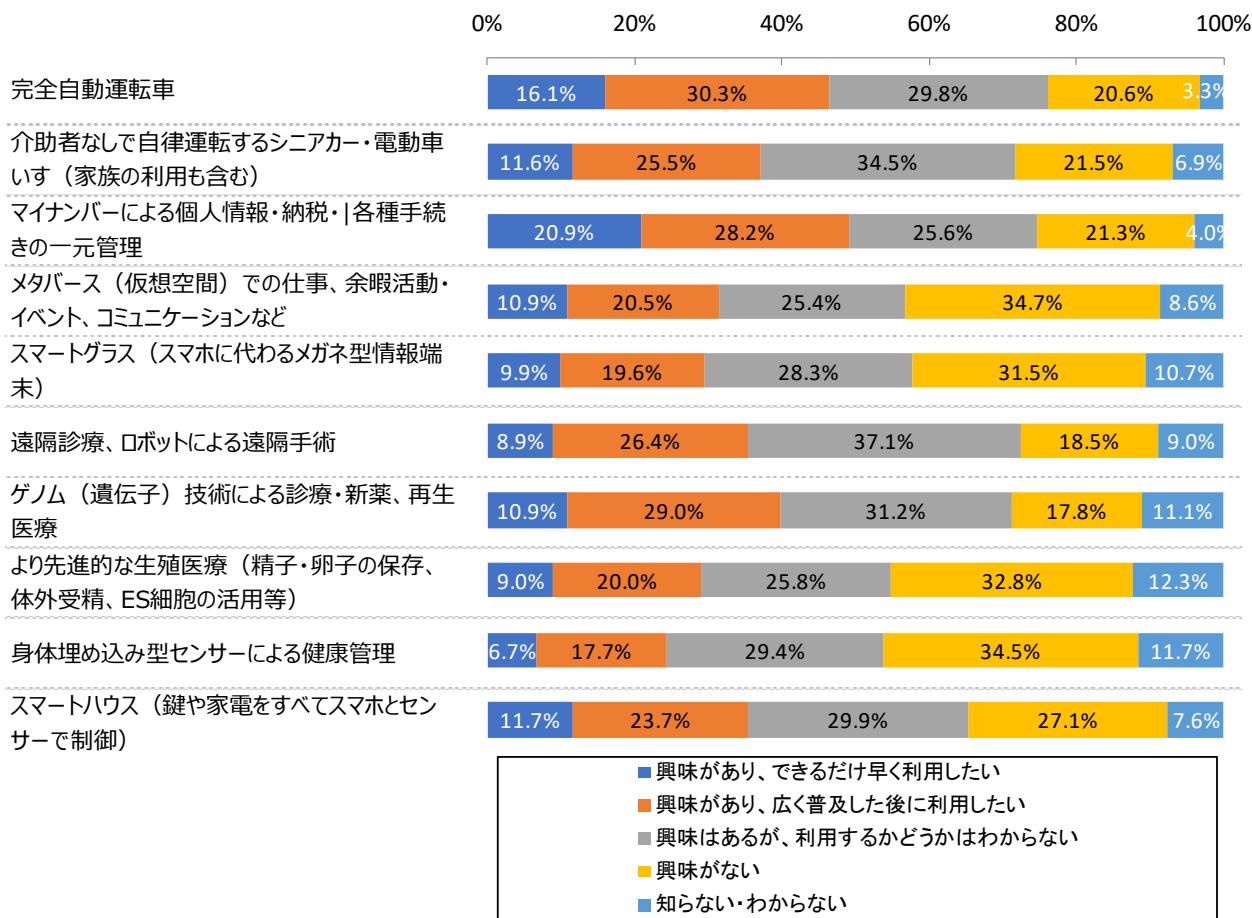


図 3-6. 将来の新技術・新サービスへの関心と利用意向

AIG 総研

「興味があり、できるだけ早く利用したい」「興味があり、広く普及した後に利用したい」までを、新技術・新サービスへの積極的な利用意向のある「強い関心層」と想定すると、提示したすべての項目について、強い関心層の割合は 5 割を切っており、新技術・新サービスへの関心や利用意向はいずれもそれほど高いものではないという現状を示唆しています。

その中でも比較的支持されているものとしては、完全自動運転車（強い関心層の割合 46.4%）、マイナンバーによる個人情報等の一元管理（同 49.1%）があげられます。逆に数値が低かったのは、身体埋め込みセンサーによる健康管理（同 24.4%）、より先進的な生殖医療（同 29.0%）など、私たちの身体に影響を与える（侵襲性のある）もの、メタバース（同 31.4%）やスマートグラス（同 29.5%）などいわゆる「スマホの次」と想定されているものの、具体的な利用イメージなどが必ずしもまだ明確に提示されていないと考えられるものなどになります。

また、いずれの設定間についても、「興味はあるが、利用するかどうかは分からない」という「態度保留層」の割合が 3 割から 4 割近くを占めている点も注目されます。

続いて、これらの新技術・新サービスがもつリスクに対して不安を感じるかどうかについても聞いています。

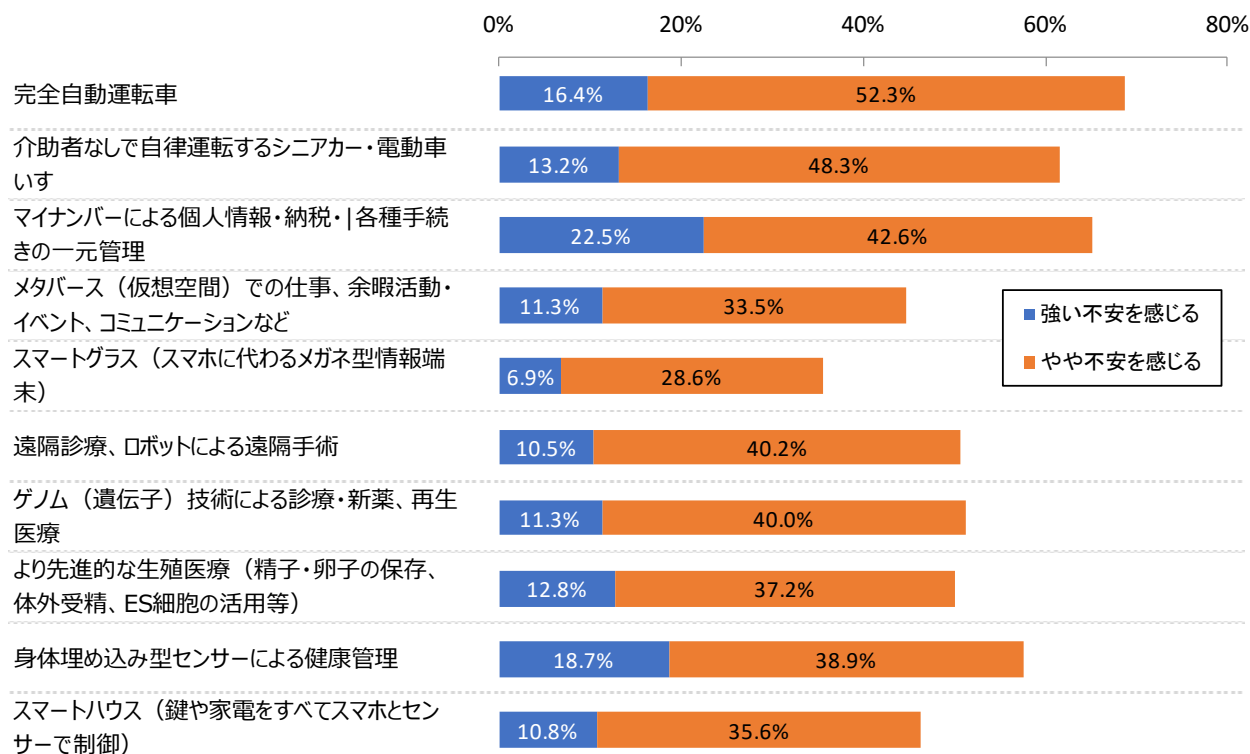


図 3-7. 将来の新技術・新サービスのリスクに対する不安の強さ

先ほどの設問で利用意向の高かった、完全自動運転車とマイナンバーによる情報一元管理が、それにより生じるリスクへの不安感でも 1 位、2 位を占め、約 2/3 の回答者が、「強い不安を感じる」または「やや不安を感じる」と答えています。これら 2 つの新技術・新サービスについては、多くの人々が「リスクへの不安はあるものの、実用化されたら利用したい」と認識していることが示唆される結

AIG 総研

果となっています。

最後に、日本をとりまくさまざまなマクロトレンドが、日本の将来に対してどのくらい影響を与えると考えているのかについて聞きました。

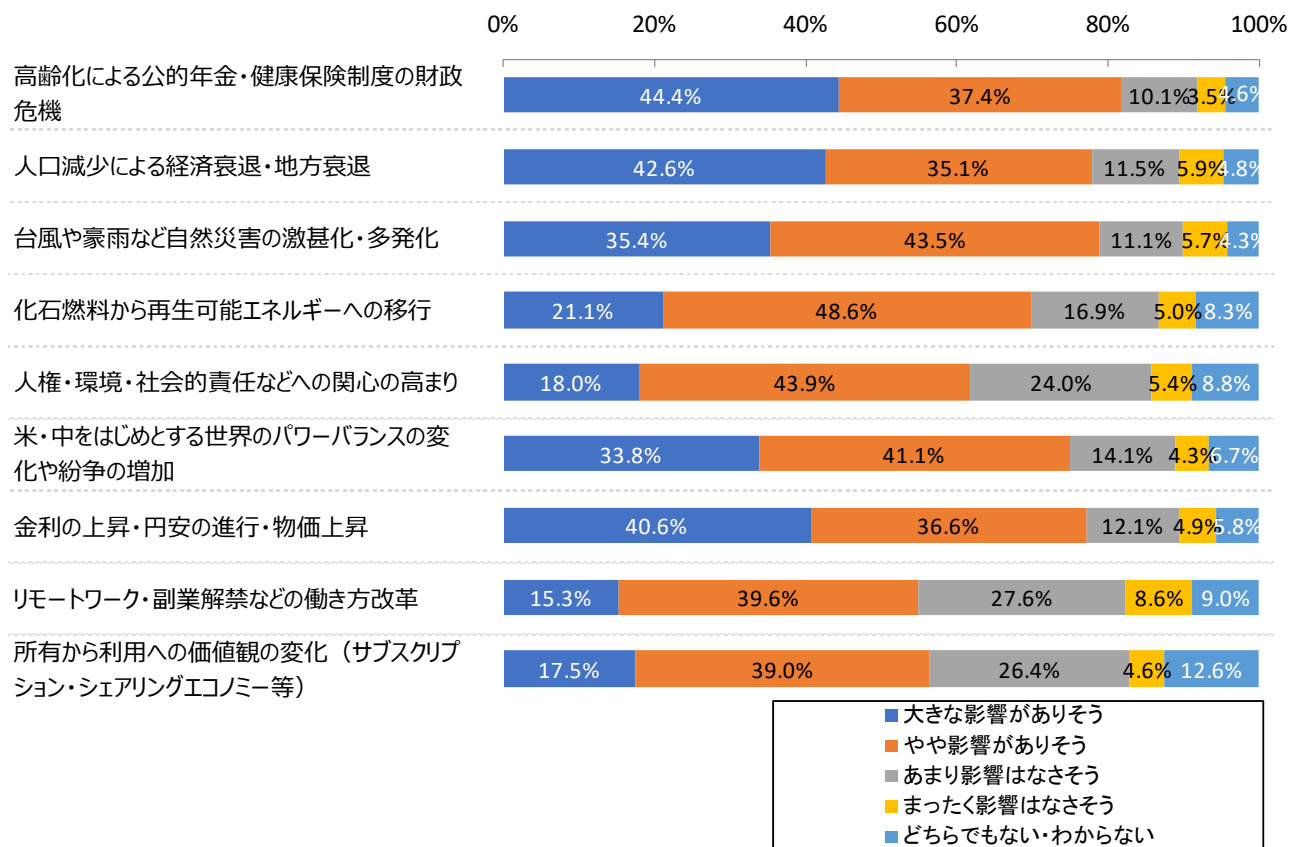


図 3-8. さまざまなマクロトレンドが日本の将来に与える影響の大きさについての回答結果

「大きな影響がありそう」「やや影響がありそう」を合計した割合が 70%を超えたのは、少子高齢化、人口減少、自然災害の激甚化、世界のパワーバランスの変化、円安・物価上昇という 5 つのマクロトレンドでした。この数値はいずれの項目についても 50%を超えています。また、「働き方改革」「所有から利用へ」の 2 項目は 55%前後にとどまり、相対的には低めの評価となっています。

4. 属性ごとの回答傾向の分析

続いて、今回調査で新たに設定した新技術・新サービス・マクロトレンドに関する設問に対する回答を、主な回答者属性別にみていきます。

まずは、現在利用している IT 機器やオンラインサービス等についての質問の結果です。

		スマート フォン	PC	SNS	ネット フリ マ・オク ションサ ービス	動画・音 楽配信 サービ ス	スマート スピー カー	オンライ ンデリバ リーサ ービス	QR決済 サービ ス	Eラーニ ング	オンライ ン保険見 積り・契 約サー ビス
全体		89.7%	81.1%	63.9%	51.0%	57.9%	22.2%	25.4%	59.3%	17.6%	23.9%
性別	男性	89.5%	83.6%	65.5%	52.4%	59.4%	27.3%	25.0%	58.9%	20.5%	26.4%
	女性	89.8%	78.8%	62.5%	49.7%	56.6%	17.6%	25.7%	59.6%	14.9%	21.7%
年代	19歳以下	87.3%	69.6%	85.3%	60.8%	68.6%	27.5%	28.4%	62.7%	17.6%	13.7%
	20歳～29歳	82.2%	61.5%	69.0%	60.6%	68.1%	39.4%	34.3%	58.2%	28.6%	27.2%
	35歳～39歳	92.4%	70.9%	70.9%	68.6%	72.2%	31.8%	39.5%	69.5%	23.8%	24.7%
	40歳～49歳	92.9%	84.8%	76.1%	62.6%	68.4%	21.5%	32.7%	69.0%	20.5%	25.6%
	50歳～59歳	94.9%	89.8%	67.6%	46.9%	54.3%	17.6%	25.8%	64.8%	18.8%	25.0%
	60歳～69歳	90.7%	90.4%	56.9%	42.0%	54.1%	16.0%	15.3%	53.4%	13.5%	27.0%
	70歳～79歳	85.1%	87.7%	40.5%	30.5%	34.9%	12.6%	10.0%	45.0%	6.3%	20.8%
	80歳以上	86.0%	78.0%	42.0%	24.0%	30.0%	8.0%	12.0%	34.0%	2.0%	10.0%
職業	公務員	94.7%	82.5%	71.9%	66.7%	71.9%	42.1%	35.1%	70.2%	35.1%	33.3%
	経営者・役員	90.5%	85.7%	64.3%	52.4%	61.9%	26.2%	28.6%	66.7%	28.6%	35.7%
	会社員(事務系)	89.1%	79.6%	66.2%	61.7%	67.7%	33.8%	39.8%	64.2%	33.3%	34.3%
	会社員(技術系)	87.6%	81.4%	68.9%	57.6%	65.0%	33.3%	32.2%	65.0%	31.6%	31.1%
	会社員(その他)	95.8%	77.2%	75.4%	64.1%	68.9%	31.1%	32.3%	68.9%	21.0%	27.5%
	自営業	93.6%	91.0%	71.8%	57.7%	66.7%	21.8%	16.7%	60.3%	14.1%	26.9%
	自由業	87.5%	97.9%	75.0%	47.9%	58.3%	16.7%	27.1%	58.3%	18.8%	31.3%
	専業主婦(主夫)	90.2%	83.4%	51.9%	38.3%	43.9%	10.7%	17.8%	54.6%	7.4%	17.8%
	パート・アルバイト	90.7%	74.8%	63.6%	48.1%	52.3%	13.1%	22.9%	58.4%	7.0%	17.8%
	学生	83.4%	66.9%	77.2%	57.2%	68.3%	30.3%	26.9%	61.4%	19.3%	17.9%
	その他	87.1%	88.4%	52.0%	38.2%	47.6%	12.4%	14.2%	45.3%	8.4%	17.8%
婚姻	未婚	86.7%	77.3%	69.2%	55.3%	61.8%	22.7%	27.0%	59.3%	18.3%	19.6%
	既婚・子どもなし	91.3%	83.6%	58.9%	46.9%	55.6%	17.9%	25.6%	57.5%	13.0%	23.2%
	既婚・子どもあり	91.5%	83.4%	61.1%	48.6%	55.4%	22.9%	24.1%	59.6%	18.1%	27.4%

図 4-1. IT 機器・サービスの利用率(「よく利用している」「利用したことがある程度」の合計)についての属性別調査結果

利用機器・サービスの利用率について、男女間では大きな差はありませんでした(スマートスピーカーで若干男性の利用率が高い程度)。年齢別では、ほとんどの項目について年齢が上がるにつれ利用率は下がっていきませんが、PCに関しては逆に高年齢層ほど利用率が高い傾向が示されています。職業別では、スマートスピーカー、Eラーニング、オンライン保険見積もりサービスなど、いくつかの項目で大きな差がみられる結果となっています。



続いて、将来の新技术・新サービスに対する関心・利用意向についての結果です。

		完全自動 運転車	自律運転 するシニア カー・電動 車いす	マイナ ンバーによる 情報・手 続きの一 元管理	メタバース での仕 事、イベ ント、コ ミュニ ケーション	スマー トグ ラス	遠隔診 療、ロボ ットによる遠 隔手術	ゲノム技 術による 診療・新 薬、再生 医療	より先進 的な生殖 医療	身体埋め 込み型セ ンサーによ る健康管 理	スマー トハ ウス
全体		46.4%	37.1%	49.1%	31.4%	29.5%	35.3%	39.9%	29.1%	24.4%	35.4%
性別	男性	51.0%	40.6%	55.8%	37.1%	37.4%	41.9%	46.9%	34.8%	30.5%	42.0%
	女性	42.2%	33.9%	43.1%	26.3%	22.4%	29.4%	33.6%	24.0%	19.0%	29.5%
年代	19歳以下	57.8%	41.2%	48.0%	52.9%	41.2%	33.3%	38.2%	44.1%	29.4%	52.9%
	20歳～29歳	60.1%	47.9%	54.5%	51.6%	45.1%	37.6%	45.5%	50.2%	39.0%	53.5%
	35歳～39歳	59.6%	40.4%	52.5%	44.4%	43.5%	46.2%	48.9%	45.7%	35.0%	50.2%
	40歳～49歳	51.5%	39.7%	52.9%	37.0%	33.0%	37.7%	44.4%	30.3%	24.6%	37.0%
	50歳～59歳	44.1%	32.0%	41.0%	26.2%	28.1%	34.4%	38.3%	20.7%	21.5%	32.8%
	60歳～69歳	34.5%	30.6%	48.4%	20.3%	21.4%	35.2%	37.7%	23.5%	19.2%	24.2%
	70歳～79歳	32.0%	32.0%	45.4%	11.9%	11.2%	25.7%	28.6%	8.6%	13.0%	17.5%
80歳以上	30.0%	42.0%	56.0%	4.0%	8.0%	24.0%	32.0%	12.0%	10.0%	20.0%	
職業	公務員	71.9%	49.1%	61.4%	38.6%	42.1%	50.9%	52.6%	45.6%	42.1%	54.4%
	経営者・役員	69.0%	57.1%	57.1%	33.3%	31.0%	52.4%	50.0%	31.0%	26.2%	42.9%
	会社員(事務系)	52.7%	44.8%	55.2%	44.8%	41.8%	42.8%	48.3%	42.3%	34.8%	47.8%
	会社員(技術系)	59.9%	46.9%	64.4%	45.8%	48.6%	44.6%	48.6%	39.5%	38.4%	47.5%
	会社員(その他)	51.5%	37.1%	53.9%	37.1%	37.7%	39.5%	48.5%	35.9%	29.3%	48.5%
	自営業	39.7%	29.5%	38.5%	28.2%	30.8%	33.3%	44.9%	23.1%	20.5%	28.2%
	自由業	56.3%	39.6%	54.2%	47.9%	35.4%	47.9%	45.8%	35.4%	25.0%	35.4%
	専業主婦(主夫)	34.1%	30.9%	39.8%	15.1%	13.6%	26.7%	28.8%	14.2%	12.8%	20.2%
	パート・アルバイト	37.4%	26.2%	39.7%	24.8%	20.1%	28.5%	32.2%	20.6%	13.6%	23.4%
	学生	59.3%	46.2%	47.6%	55.2%	42.8%	35.9%	42.8%	50.3%	36.6%	56.6%
その他	34.2%	31.6%	49.8%	14.7%	16.4%	28.0%	32.9%	16.9%	16.9%	22.2%	
婚姻	未婚	48.7%	37.1%	47.3%	38.2%	33.3%	34.8%	39.6%	33.9%	27.1%	38.7%
	既婚・子どもなし	37.7%	26.6%	44.9%	27.5%	25.1%	32.9%	35.7%	22.7%	21.3%	28.5%
	既婚・子どもあり	46.7%	39.6%	51.5%	27.1%	27.7%	36.3%	41.1%	26.9%	23.1%	34.6%

図 4-2. 将来の新技术・新サービスの関心・利用意向(「興味があり、できるだけ早く利用したい」「興味があり、広く普及した後に利用したい」の回答率の合計)についての属性別調査結果

性別ごとにみると、多くの項目で、女性よりも男性のほうが関心が高い傾向がみとれます。また年齢別では、「自律運転するシニアカー」「マイナンバーによる一元管理」「遠隔診療・手術」「ゲノム医療」など、高齢者のニーズに沿った新技术については年齢ごとの差が小さい(高齢者の関心・利用意向も他の年齢層同等に高い)のに対し、それ以外のものについては年齢があがるにつれ関心が下がっていく傾向がはっきりしています。職業別や婚姻状況別の傾向については、年齢との交絡が強く想定されますが、なかでも専業主婦(主夫)の方の関心度が全体的に低めであることが注目されます。

AIG 総研

続いて、これらの新技術・新サービスによるリスクへの不安についての傾向です。

		完全自動 運転車	自律運転 するシニア カー・電動 車いす	マイナ バーによる 情報・手 続きの一 元管理	メタバース での仕 事、イベ ント、コ ミュニ ケーション	スマート グ ラ ス	遠隔診 療、ロボ ットによる遠 隔手術	ゲノム技 術による 診療・新 薬、再生 医療	より先進 的な生殖 医療	身体埋め 込み型セ ンサーに よる健康 管理	スマート ハ ウス
全体		68.7%	61.5%	65.2%	44.8%	35.5%	50.7%	51.3%	50.0%	57.6%	46.4%
性別	男性	63.1%	54.8%	56.9%	37.5%	28.9%	42.4%	45.5%	46.0%	50.4%	38.6%
	女性	73.6%	67.6%	72.6%	51.4%	41.5%	58.2%	56.5%	53.6%	64.1%	53.4%
年代	19歳以下	55.9%	40.2%	50.0%	39.2%	26.5%	43.1%	48.0%	48.0%	44.1%	42.2%
	20歳～29歳	49.8%	45.5%	59.2%	42.7%	37.6%	33.3%	39.0%	50.7%	44.6%	45.1%
	35歳～39歳	61.0%	53.4%	62.3%	46.6%	34.5%	45.3%	45.3%	47.1%	61.9%	47.1%
	40歳～49歳	66.0%	55.2%	65.3%	39.4%	28.6%	56.2%	55.9%	48.1%	59.3%	45.5%
	50歳～59歳	71.1%	65.6%	67.6%	41.0%	31.6%	50.0%	48.0%	44.9%	59.4%	39.8%
	60歳～69歳	80.4%	73.3%	70.8%	50.2%	40.9%	57.3%	56.2%	54.1%	61.6%	47.3%
	70歳～79歳	80.7%	76.2%	67.3%	48.0%	41.3%	57.2%	58.4%	53.9%	61.0%	53.2%
	80歳以上	82.0%	80.0%	78.0%	62.0%	50.0%	64.0%	60.0%	58.0%	62.0%	56.0%
職業	公務員	43.9%	47.4%	52.6%	31.6%	22.8%	26.3%	31.6%	29.8%	49.1%	33.3%
	経営者・役員	78.6%	73.8%	64.3%	38.1%	26.2%	50.0%	47.6%	47.6%	69.0%	38.1%
	会社員(事務系)	67.7%	58.2%	56.7%	40.3%	36.3%	44.8%	51.2%	49.8%	50.2%	52.2%
	会社員(技術系)	57.1%	49.2%	61.0%	33.3%	29.9%	42.9%	49.2%	50.3%	51.4%	35.6%
	会社員(その他)	64.1%	64.1%	65.3%	47.3%	35.9%	53.3%	53.9%	53.9%	58.7%	48.5%
	自営業	78.2%	74.4%	71.8%	48.7%	28.2%	48.7%	50.0%	50.0%	56.4%	39.7%
	自由業	64.6%	60.4%	64.6%	37.5%	22.9%	39.6%	50.0%	50.0%	60.4%	52.1%
	専業主婦(主夫)	81.0%	75.4%	74.8%	55.5%	46.9%	62.0%	56.1%	52.8%	67.4%	52.2%
	パート・アルバイト	69.2%	58.9%	71.5%	43.5%	34.1%	57.9%	51.4%	46.7%	63.6%	46.7%
	学生	54.5%	37.9%	51.0%	44.8%	30.3%	37.2%	42.1%	49.0%	42.8%	42.1%
	その他	74.2%	66.2%	65.8%	46.2%	36.9%	54.7%	56.0%	52.4%	57.3%	48.0%
婚姻	未婚	58.9%	50.7%	60.1%	40.4%	30.7%	47.0%	47.3%	45.6%	51.9%	43.9%
	既婚・子どもなし	75.4%	67.6%	71.0%	47.3%	38.2%	50.2%	51.7%	44.4%	59.4%	54.6%
	既婚・子どもあり	74.6%	68.4%	67.7%	47.7%	38.7%	53.8%	54.3%	54.9%	61.6%	46.3%

図 4-3. 将来の新技術・新サービスのリスクに対する不安(「強い不安を感じる」「やや不安を感じる」の回答率の合計)についての属性別調査結果

男性より女性のほうが、また年齢が上がるにつれて不安を感じる傾向が強くなっていますが、これは本設問に限らず、リスク全般に対して一般的にみられる傾向だと言えます。(下記に、今回の調査の前半で質問している、リスクに対する恐怖・不安についての男女別の傾向を示します。)

	地震や台風、豪雨による災害などがもたらす被害をイメージすると、恐怖や不安を感じる。	外国からの侵略や武力攻撃がもたらす被害をイメージすると、恐怖や不安を感じる。	気候変動・地球温暖化がもたらす被害をイメージすると、恐怖や不安を感じる。	病気やケガなどにより生命や健康を害することをイメージすると、恐怖や不安を感じる。	失業などにより収入が途絶えることをイメージすると、恐怖や不安を感じる。
男性	75.9%	71.9%	71.0%	73.8%	60.6%
女性	83.8%	80.5%	80.7%	84.4%	74.6%

図 4-4. 身の回りのリスクに対する恐怖・不安についての男女別傾向(「そう思う」「ややそう思う」の合計)

AIG 総研

最後に、マクロトレンドに対する意識続いて、リスクに対する意識についての傾向です。

		高齢化による年金・健康保険制度の財政危機	人口減少による経済衰退・地方衰退	台風や豪雨など自然災害の激甚化・多発化	化石燃料から再生可能エネルギーへの移行	人権・環境・社会的責任などへの関心の高まり	世界のパワーバランスの変化や紛争の増加	金利の上昇・円安の進行・物価上昇	リモートワーク・副業解禁などの働き方改革	所有から利用への価値観の変化
	全体	81.7%	77.7%	78.9%	69.7%	61.9%	74.9%	77.2%	54.8%	56.5%
性別	男性	80.4%	76.8%	75.9%	67.8%	57.6%	74.8%	74.8%	50.3%	53.4%
	女性	82.9%	78.6%	81.7%	71.5%	65.7%	75.0%	79.3%	58.9%	59.3%
年代	19歳以下	61.8%	61.8%	63.7%	55.9%	51.0%	58.8%	57.8%	53.9%	59.8%
	20歳～29歳	61.5%	47.4%	49.3%	52.1%	54.0%	55.4%	46.0%	46.9%	62.0%
	35歳～39歳	75.3%	68.6%	68.6%	60.1%	62.8%	65.9%	71.7%	61.9%	65.5%
	40歳～49歳	84.8%	81.1%	83.8%	70.4%	59.3%	76.1%	80.1%	55.6%	57.6%
	50歳～59歳	89.1%	87.1%	87.5%	78.1%	58.6%	80.1%	84.4%	51.2%	53.1%
	60歳～69歳	90.7%	89.7%	90.7%	81.9%	75.1%	85.4%	90.7%	58.4%	55.9%
	70歳～79歳	88.8%	87.0%	88.5%	74.3%	61.7%	84.8%	86.6%	54.3%	46.8%
	80歳以上	92.0%	94.0%	92.0%	76.0%	72.0%	84.0%	92.0%	56.0%	52.0%
職業	公務員	73.7%	70.2%	68.4%	63.2%	45.6%	71.9%	75.4%	49.1%	59.6%
	経営者・役員	88.1%	90.5%	90.5%	78.6%	59.5%	81.0%	85.7%	47.6%	52.4%
	会社員(事務系)	80.1%	71.6%	74.6%	68.7%	64.7%	72.6%	70.6%	62.2%	63.7%
	会社員(技術系)	74.0%	66.7%	64.4%	62.1%	53.7%	69.5%	65.5%	49.7%	55.4%
	会社員(その他)	80.2%	76.6%	75.4%	73.1%	67.1%	73.7%	76.6%	49.1%	59.3%
	自営業	89.7%	88.5%	88.5%	76.9%	56.4%	83.3%	88.5%	57.7%	53.8%
	自由業	89.6%	87.5%	87.5%	81.3%	75.0%	81.3%	87.5%	58.3%	58.3%
	専業主婦(主夫)	88.1%	86.4%	90.2%	78.6%	70.3%	82.2%	86.4%	58.5%	57.0%
	パート・アルバイト	80.8%	76.2%	81.8%	60.3%	57.0%	70.6%	79.4%	53.7%	52.3%
	学生	64.8%	55.9%	59.3%	56.6%	52.4%	57.2%	54.5%	49.0%	58.6%
	その他	88.9%	88.9%	85.3%	73.3%	63.6%	81.8%	84.0%	56.9%	51.1%
婚姻	未婚	75.0%	70.6%	70.7%	62.7%	56.9%	67.5%	70.4%	52.7%	56.9%
	既婚・子どもなし	84.1%	83.1%	84.1%	73.4%	60.9%	76.3%	79.2%	48.8%	50.7%
	既婚・子どもあり	86.3%	81.9%	84.1%	74.3%	66.0%	80.2%	81.9%	58.0%	57.6%

図 4-4. 日本をとりまくマクロトレンドの影響の大きさ(「大きな影響がありそう」「やや影響がありそう」の回答率の合計)についての属性別調査結果

性別による差はあまり大きくありませんが、その中でも「人権や社会的責任への関心の高まり」「働き方改革」については 8 ポイント以上、「自然災害の激甚化」「所有から利用への価値観の変化」については 5 ポイント以上の差をつけて女性のスコアが男性を上回っており、女性が社会・環境問題に関するマクロトレンドをより重視する傾向にあることがみとれます。

また年齢別では、おおむね年齢が上がるにつれて影響が大きいと評価する傾向がみられますが、「働き方改革」「所有から利用への価値観の変化」についてはそういった傾向がみられません。職業別では、円安や物価上昇に対する影響度評価のスコアが、公務員・会社員といった「被雇用者」でやや低めに突出している点が注目されます。

5. 回答傾向に基づく類型化

前回・前々回調査に引き続き、今回の調査結果に基づいた、人々のリスクや新技術・新サービス、マクロトレンドに対する意識を俯瞰的に分析し、類型化するため、因子分析ならびにクラスタ分析を

実施しました。

最初に、多岐にわたる今回の設問の構造を単純化するため、全設問について回答傾向に基づく因子分析を行い、以下の 12 因子を得ました。

因子	因子名	内容
Factor a1	非災害リスク意識	病気・ケガ・失業など、(自然) 災害以外のリスクを大きく評価する因子
Factor a2	災害リスク意識	地震・風水害・火災などの災害のリスクを大きく評価する因子
Factor a3	災害リスクへの不安	自然災害等のリスクに対して恐怖・不安を強く感じる因子
Factor a4	リスクへの積極行動	リスクに関する行動を積極的に支持する因子
Factor a5	リスク社会対応力評価	日本の社会が、リスクに対してうまく対応していると感じる因子
Factor a6	リスクへの備え	リスクに対するさまざまな備えを行っている因子
Factor a7	戦争リスク意識	外国からの侵攻のリスクを重大視している因子
Factor b1	新技術への関心	新技術・新サービスに対し強い関心・利用意向をもっている因子
Factor b2	新技術へのリスク意識	新技術・新サービスに対し不安感をもっている因子
Factor b3	マクロトレンド意識	マクロトレンド(社会トレンド除く)の影響を大きく評価する因子
Factor b4	IT機器等利用	現在、IT機器やITサービスを幅広く利用している因子
Factor b5	社会トレンド意識	社会トレンド系のマクロトレンドの影響を大きく評価する因子

表 5-1. 因子分析により得られた 12 の因子の概要

これらの因子の因子得点に基づき、各回答者に対するクラスタ分析を実施したところ、下記のような 4 つのクラスタを得ました。

#	クラスタ 1	クラスタ 2	クラスタ 3	クラスタ 4
クラスタ名	新技術関心層	リスク意識高い層	無関心層	リスク自助層
回答者数	358	307	471	555
平均因子 得点 プラス	リスクへの積極行動 リスク社会対応力評価 新技術への関心 IT機器等利用	非災害リスク意識 災害リスク意識 災害リスクへの不安 リスクへの積極行動 リスク社会対応力評価	非災害リスク意識 災害リスク意識 災害リスクへの不安 リスクへの積極行動	リスクへの備え 新技術へのリスク意識 マクロトレンド意識
平均因子 得点 マイナス	新技術へのリスク意識 マクロトレンド意識	戦争リスク意識 新技術へのリスク意識 マクロトレンド意識 社会トレンド意識	リスクへの備え 戦争リスク意識 新技術への関心 新技術へのリスク意識 マクロトレンド意識 IT機器等利用 社会トレンド意識	リスク社会対応力評価 新技術への関心 IT機器等利用
説明	現在、IT機器・サービス等を幅広く利用しており、新技術への関心も高く、それらが引き起こすリスクに対する不安感も低い、新技術ポジティブ層。	全因子スコアがプラス。リスク全般について警戒しており、各種マクロトレンドが日本に与える影響も大きいと感じている。新技術についても関心よりリスクへの不安が先に立つ、リスク意識先行層。	すべての因子がマイナス。リスク全般に対する意識が低く、備えてもいない。現状も将来も新技術への関心が薄く、マクロトレンドについても興味がない、無関心層。	日本の社会はリスクに対してうまく対応できていないと感じ、自ら各種リスクへの備えを実行している。新技術についても関心よりリスクを感じている。リスクには自ら対処する他ないと考える、自助主義層。

表 5-2. クラスタ分析によって得られた 4 クラスタの概要。上部の表では因子得点プラス・マイナスそれぞれについて絶対値の大きいものが列挙されており、太字は特に絶対値の大きいものを示している。

AIG 総研

今回の調査では、大きく分けて「身の回りのリスクについての意識」と、「新技術やマクロトレンドに関する意識」を聞いていますが、クラスター分析の結果をみると、身の回りリスクと新技術のリスク、「両者を横断したリスク意識」や、身の回りのリスクや新技術、マクロトレンドまで含んだ「社会の動向全般に対する高い関心（もしくは無関心）」に関する意識、といった軸で回答者が分類される結果となっています。

また、4つのクラスターのうち、クラスター1・2・3の3つについては、比較的全体的・包括的な意識の傾向・関心の高さ・低さに基づき分類されているなかで、もっとも所属回答者数の多い（555人で全体の約1/3）クラスター4の「リスク自助層」は「リスクに対する自助意識・自助行動」という、かなり具体的な意識・行動によって分類されたものとなっている点も注目されます。リスク全般について、他人や社会には頼れないから自分で何とかしなければ、という意識は、相当数の日本人の間で共有されている、リスクに対する一般的な意識である、ということがいえそうです。

今回、分類されたクラスター分布の属性別の偏りをみると、より傾向がはっきりします。

		回答者数	新技術関心層	リスク意識高い層	無関心層	リスク自助層
全体		1,691	21.2%	18.2%	27.9%	32.8%
性別	男性	800	23.5%	12.0%	36.6%	27.9%
	女性	891	19.1%	23.7%	20.0%	37.3%
年代	19歳以下	102	43.1%	9.8%	33.3%	13.7%
	20歳～29歳	213	35.2%	13.1%	44.1%	7.5%
	35歳～39歳	223	30.0%	22.9%	28.3%	18.8%
	40歳～49歳	297	23.9%	22.6%	21.9%	31.6%
	50歳～59歳	256	16.8%	20.7%	24.6%	37.9%
	60歳～69歳	281	12.8%	19.2%	25.3%	42.7%
	70歳～79歳	269	7.4%	13.8%	27.1%	51.7%
職業	公務員	57	28.1%	14.0%	38.6%	19.3%
	経営者・役員	42	11.9%	23.8%	33.3%	31.0%
	会社員(事務系)	201	32.8%	18.9%	29.9%	18.4%
	会社員(技術系)	177	27.7%	11.9%	37.3%	23.2%
	会社員(その他)	167	26.9%	19.2%	25.1%	28.7%
	自営業	78	23.1%	12.8%	24.4%	39.7%
	自由業	48	22.9%	8.3%	22.9%	45.8%
	専業主婦(主夫)	337	9.5%	26.1%	17.2%	47.2%
	パート・アルバイト	214	16.8%	22.4%	24.8%	36.0%
	学生	145	43.4%	8.3%	37.9%	10.3%
	その他	225	7.6%	16.0%	31.6%	44.9%
婚姻	未婚	649	26.0%	17.6%	33.0%	23.4%
	既婚・子どもなし	207	16.9%	21.3%	22.2%	39.6%
	既婚・子どもあり	835	18.4%	17.8%	25.3%	38.4%

表 5-3. 属性ごとのクラスタ分布。属性ごとに4つのクラスタそれぞれに属する人の割合（構成比）を示している。

今回も年齢による分布の変化・偏りは非常に明確に現れており、年齢が上がるにつれて、「新技術関心層」が減少し、「リスク自助層」が劇的に増加していきます。「リスク意識高い層」は、30～40歳台

AIG 総研

までは年齢とともに増加傾向をみせますが、50 歳台以降は一転して減少傾向となります。

また、性別ごとにみると、「リスク意識高い層」と「リスク自助層」は女性の割合が高く、「無関心層」は男性の構成比が高めとなっています。

次に職業別でみると、公務員・会社員では「無関心層」の割合が高く、自由業・自営業・専業主婦（主夫）などでは「リスク自助層」の割合が高くなっています。婚姻状況別では、未婚者に「無関心層」が多いことがみてとれます。

6. おわりに

本調査は今回で 3 回目となり、自然災害をはじめとするさまざまなリスクの大きさや不安、リスクに関連する行動等、身の回りのリスクに対する人々の意識の変化を定点観測的にとらえることができるようになってきました。

加えて、今回は「将来の」リスク要因となりうるさまざまな新技術や、日本をとりまくマクロトレンドについてもあわせて聞くことで、現在のリスクのみならず、将来のリスクに対する認識も含めた、人々のより幅広いリスク認識についてのインサイトを得ることを試みました。調査結果に対する各種集計や統計的解析の結果、現在のリスクについての意識と、将来のリスクについての意識には関係があり、いずれのリスクに対しても警戒の強い層、逆に無関心な層などが存在することなど、多くのインサイトが得られました。これらの分析結果は、今後のリスクコミュニケーションや新技術の社会受容性向上の取り組みなどに活用できるものと考えます。

今回で 3 回目となったリスクに対する意識調査ですが、今後もこのような形で継続し、人々のリスクに対する意識の変化を多面的に追っていきたいと考えています。

※本ドキュメントは保険もしくはその他一切の金融商品の販売、勧誘を意図したものではありません。また、本ドキュメントは具体的な特定の取引をご提案するものではなく、その実現性を保証するものでもありません。

※AIG 総合研究所（以下「AIG」と呼びます。）は、本ドキュメントの利用あるいは利用の結果に関して、その正確性、精度、信頼性などについていかなる表明および保証も行わないものではなく、その利用の結果については責任を負いません。AIG は、本ドキュメントがいかなる場所においても適切であり利用可能であることを表明するものではありません。AIG は、正確かつ最新の情報を本ドキュメントで提供しよう合理的な努力をしていますが、誤差・脱漏が生じる場合があります。

※AIG あるいは本ドキュメントの企画、作成または提供に関わるいかなる当事者も、お客様が本ドキュメントを利用したことあるいは利用できなかったことに起因する直接的、偶発的、結果的、間接的損害あるいは懲罰的賠償の責任を負うものではありません。

※本ドキュメントに掲載されている内容に関する権利は、AIG および AIG が利用許諾を得た著作権者に帰属します。無断で転用・複製・改変をすることはできません。

※本レポート作成にあたっては、株式会社ジャストシステムの提供する FastAsk サービスを利用しております。当該リサーチの回答結果の著作権は株式会社ジャストシステムに帰属し、AIG は同サービスのリサーチ会員規約に基づき回答結果を利用しております。

参考資料：調査票（抜粋）

- (1) 下記のそれぞれの「リスク」について、あなたはどのくらい自分の生活において大きなリスクだと感じていますか？

【選択肢群】大きなリスクだと感じる やや大きなリスクだと感じる どちらでもない やや小さなリスクだと感じる 小さなリスクだと感じる

- ① 地震(地震による津波を含む)
- ② 水害・風災(台風や豪雨による災害)
- ③ 火災(放火・失火・類焼)
- ④ 犯罪にあうこと(盗難・テロ・暴力事件等)
- ⑤ 外国からの侵略・武力攻撃
- ⑥ 気候変動・地球温暖化
- ⑦ がん・心疾患・脳卒中・感染症等の疾病、事故等によるケガ
- ⑧ メンタルヘルス不調(うつや過労死など)
- ⑨ 自分や家族が要介護状態になること
- ⑩ 失業、家計の破綻、老後の生活費不足など

- (2) 身の回りの「リスク」についての以下の項目について、それぞれあなたはどのように思いますか？

【選択肢群】そう思う ややそう思う どちらでもない ややそう思わない そう思わない

- ① 地震や台風、豪雨による災害などがもたらす被害をイメージすると、恐怖を感じる。
- ② 外国からの侵略や武力攻撃がもたらす被害をイメージすると、恐怖を感じる。
- ③ 気候変動・地球温暖化がもたらす被害をイメージすると、恐怖を感じる。
- ④ 病気やケガなどにより生命や健康を害することをイメージすると、恐怖を感じる。
- ⑤ 失業などにより収入が途絶えることをイメージすると、恐怖を感じる。
- ⑥ 私たちの社会は、地震や台風、豪雨などの災害リスクに対して、うまく対処している。
- ⑦ 私たちの社会は、外国からの侵略や戦争などのリスクに対して、うまく対処している。
- ⑧ 私たちの社会は、気候変動・地球温暖化のリスクに対して、うまく対処している。
- ⑨ 私たちの社会は、病気やケガなどの生命・健康リスクに対して、うまく対処している。
- ⑩ 私たちの社会は、失業などにより収入が途絶えるリスクに対して、うまく対処している。

- (3) 身の回りの「リスク」について、あなたは現在、どのような「備え」を講じていますか？あてはまるものすべて、もしくは「あてはまるものはない」にチェックしてください。【複数回答】

- ① 火災や地震、台風などの被害に備えて「火災保険」を契約している。
- ② 病気やケガなどに備えて、民間の「医療・生命保険」を契約している。
- ③ 水害に備えて、自宅周辺のハザードマップを確認している。
- ④ 地震に備えて、家具の倒壊防止の対策を講じている。
- ⑤ 災害に備えて、生活物資を備蓄している。
- ⑥ 災害発生時の家族や知人との連絡方法や避難先などを、あらかじめ決めている。
- ⑦ 気候変動・地球温暖化リスクを意識し、環境に負担をかけない生活を心がけている。
- ⑧ 病気やケガのリスクを下げるために、食事や体重管理などに気をつけている。
- ⑨ 健康増進のために、意識して運動を行っている。
- ⑩ あてはまるものはない

AIG 総研

- (4) リスクやその備え全般に対する下記の意見について、あなたはどうか、それぞれお聞かせください。

【選択肢群】**そう思う ややそう思う ややそう思わない そう思わない わからない**

- ① リスクを低減する対策がとられていても、リスクを「ゼロ」にできないならその対策は不十分だと思う。
 - ② リスクを下げようとするとは別の分野で大きな損失が出る場合、ある程度リスクを受け入れるのはやむを得ない
 - ③ 災害や病気のリスク・対策などについて、政府・専門家のいうことは信用できる
 - ④ 災害や病気のリスク・対策などについて、TV や新聞の情報は信用できる
 - ⑤ 災害や病気のリスク・対策などについて、SNS やネットの情報は信用できる
 - ⑥ 自分の資産を守るためには、リスク型投資(株式・不動産・投資信託など)を積極的に活用すべきだと思う。
 - ⑦ 日本は外国からの侵略など安全保障面のリスクをより強く意識し、備えていくべきだと思う
 - ⑧ 気候変動リスクに対し、日本は脱炭素などの取組みをより積極的に進めるべきだと思う
 - ⑨ 社会福祉や弱者支援、セーフティネット整備などに、政府はもっと税金を投じるべきだ
 - ⑩ 病気については、軽い症状のうちに積極的に病院を受診するほうが良いと思う
- (5) 下記のサービスや商品について、あなたが現在どのくらい利用しているかについて、それぞれお聞かせください。

【選択肢群】**よく利用している 利用したことがある程度 利用していないがこれから利用したい 興味がない・知らない わからない**

- ① スマートフォン
 - ② PC(タブレット PC を含む)
 - ③ SNS(Twitter, Facebook, Instagram, TikTok 等)
 - ④ ネットフリマ・オークションサービス(ヤフオク、メルカリ等)
 - ⑤ 動画・音楽配信サービス(Netflix, Hulu, Apple Music, Spotify 等)
 - ⑥ スマートスピーカー(Amazon Echo, Google Nest, Apple Homepod 等)
 - ⑦ オンラインデリバリーサービス(UberEATs 等)
 - ⑧ QR 決済サービス(PayPay, 楽天ペイ, LINE Pay 等)
 - ⑨ E ラーニング(英語・資格取得などのオンライン学習サービス)
 - ⑩ オンライン保険見積り・契約サービス(損保・生保)
- (6) 将来、さまざまな新技術や新サービスが実用化されつつあります。あなたは、以下のような新技術やサービスに関心がありますか？ また、実用化されたら、利用してみたいと思いますか？ それぞれお聞かせください。

【選択肢群】**興味があり、できるだけ早く利用したい 興味があるが、広く普及した後に利用したい 興味はあるが利用するかどうかはわからない 興味がない・知らない わからない**

- ① 完全自動運転車
- ② 介助者なしで自律運転するシニアカー・電動車いす(家族への利用も含む)
- ③ マイナンバーによる個人情報・納税・各種手続きの一元管理

AIG 総研

- ④ メタバース(仮想空間)での仕事、余暇活動・イベント、コミュニケーションなど
 - ⑤ スマートグラス(スマホに代わるメガネ型情報端末)
 - ⑥ 遠隔診療、ロボットによる遠隔手術
 - ⑦ ゲノム(遺伝子)技術による診療・新薬、再生医療
 - ⑧ より先進的な生殖医療(精子・卵子の保存、体外受精、ES 細胞の活用等)
 - ⑨ 身体埋め込み型センサーによる健康管理
 - ⑩ スマートハウス(鍵や家電をすべてスマホとセンサーで制御)
- (7) これまでにない新技術・新サービスには、新たなリスクが生じることも想定されます。あなたは、下記の新技術・新サービスについて、それらが引き起こすリスクに対してどの程度不安を感じますか？ それぞれお聞かせください。

【選択肢群】 強い不安を感じる やや不安を感じる どちらでもない あまり不安を感じないまったく不安を感じない わからない

※リスク項目は問(6)と同じ

- (8) 日本をとりまくさまざまなマクロトレンドのうち、あなたが特に将来の日本の経済や社会に大きな影響を与えるだろうと感じるものはどれですか？ それぞれお聞かせください。

【選択肢群】 大きな影響がありそう やや影響がありそう どちらでもない あまり影響はなさそう まったく影響はなさそう わからない

- ① 高齢化による公的年金・健康保険制度の財政危機
 - ② 人口減少による経済衰退・地方衰退
 - ③ 台風や豪雨など自然災害の激甚化・多発化
 - ④ 化石燃料から再生可能エネルギーへの移行
 - ⑤ 人権・環境・社会的責任などへの関心の高まり
 - ⑥ 米・中をはじめとする世界のパワーバランスの変化や紛争
 - ⑦ 金利の上昇・円安の進行・物価上昇
 - ⑧ リモートワーク・副業解禁などの働き方改革
 - ⑨ 所有から利用へ(サブスクリプション・シェアリングエコノミー)
- (9) あなたは、これからの日本の未来に何がどのように影響を与え、社会がどのように変わっていくと予想していますか？ ご自由にご記入ください。

(フリー回答)